
令和6年度 第2回豊田市上下水道事業審議会 会議録

【日時】 令和6年8月5日（月） 午後1時30分～3時00分

【場所】 豊田市役所 南51会議室

【次第】 1 会長あいさつ

2 議事

（1）次期（令和7～10年度）下水道使用料のあり方 【資料1】

- ・収支計上の考え方（種目別）
- ・必要な使用料収入の考え方
- ・人口減少に伴う経営課題への対応

3 事業管理者あいさつ

【出席者】 <委員> 竹内 信仁（名古屋大学名誉教授） ※会長

神頭 広好（愛知大学名誉教授）

松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校教授）

二宮 謙治（豊田信用金庫 常務理事）

片桐 正博（豊田森林組合代表理事組合長）

奥休場 優子（豊田商工会議所女性会会長）

安井 新弘（豊田市小中学校長会）

深津 浩彦（豊田市区長会理事）

山田 雄三（豊田加茂薬剤師会監事）

西尾 方宏（下山地域会議委員）

城金 茂樹（公募委員）

加藤 有花（公募委員）

<事務局> 前田 雄治（豊田市事業管理者）

杉山 勝浩（上下水道局副局長）

中川 啓二（上下水道局事業担当専門監）

小島 弘一（上下水道局総務課長）

愛知 史康（上下水道局経営管理課長）

中根 武人（上下水道局企画課長）

太田 昌男（上下水道局料金課長）

河合 保幸（上下水道局下水道施設課長）

岡田 政彦（上下水道局下水道建設課長）

浦野 大一郎（上下水道局上水運用センター所長）

古川 真一（上下水道局経営管理課副課長）

池田 浩司（上下水道局経営管理課担当長）

岡野 久（上下水道局経営管理課主査）

西川 僚（上下水道局経営管理課主査）

【欠席者】 <委員> 中山 恵子（中京大学経済学部教授） ※副会長
樹神 康之（豊田商工会議所第一工業部会部会長）
野々山 輝美（あいち豊田農業協同組合女性部部長）
三江 元博（稲武地域会議会長）
増田 比呂子（足助地域会議委員）

【傍聴者】 なし

【議事等の摘要】

1 会長あいさつ

- ・本日は、大変お忙しい中、御出席をいただきありがとうございます。
- ・収支不足を解消していくために、どの程度の値上げが必要になるのかといった視点での審議をお願いします。

2 議事

（１）次期（令和７～１０年度）下水道使用料のあり方

○事務局

- ・資料１を説明

○Ａ委員

- ・接続世帯数はどれくらいか。

○事務局

- ・１３万７千世帯程度

○Ｂ委員

- ・一般会計が負担する事業にはどのようなものが挙げられるのか。
- ・経費回収率とは何を示しているのか。
- ・スマートメーターの導入による経費削減効果は見込めないか。
- ・下水道使用料は水道料金と合わせて徴収しているが、徴収にかかる費用はどの会計で負担しているのか。

○事務局

- ・豊田市の下水道は污水事業と雨水事業に分けて経営しており、一般会計が負担する事業として、雨水事業が挙げられる。
- ・経費回収率は、污水处理にかかる費用をどの程度使用料収入で賄えているかを示している。
- ・スマートメーターの導入費用とメーター検針費用を比較しながら導入時期を検討しているところである。導入されればデータを活用した時間制料金の導入など、利用者の利便性、経済性の向上につながる可能性がある。
- ・下水道事業会計と水道事業会計で、それぞれ負担している。

○Ｃ委員

- ・水道水ではなく井戸水を利用している人も、下水道への排水量を算定して下水道使用料を払っているということを理解しておきたい。

○Ｄ委員

- ・老朽管の更新で新たに使用する管の耐久性に問題はないか。

○事務局

- ・全国的にも広く使われている管であり、耐久性に問題はない。

○E 委員

- ・面整備は一段落とあるが、今後整備の予定はないのか。

○事務局

- ・市のまちづくり事業の計画によっては、整備の必要性を検討する必要がある。今のところ、令和10年度に投資を見込んで概算で計上している。その際には、国庫補助金も財源として活用することを予定している。

○A 委員

- ・値上げの理由は国庫補助金を確保するためということなのか。
- ・値上げする金額をどのように料金体系に反映するのか。

○事務局

- ・物価高騰で県に支払う維持管理負担金が増加したことに伴う収支不足の解消が値上げの理由である。その結果、国庫補助金の交付要件を満たすことにつながった。
- ・値上げによる料金体系は次回議論する。

○F 委員

- ・社人研の人口推計を参考に使用料収入を推計したとのことだが、企業の経済状況など豊田市の特徴は反映していないのか。

○事務局

- ・経済状況における明らかな増減要因があれば反映するが、今回の収支見通しでは特別に考慮すべき要因はない。

○G 委員

- ・使用料改定による経費回収率の見込みが示されたが、しばらくその数値が継続するため、国庫補助金が確保されるということか。
- ・今後の経営課題として、流域下水道への接続が困難な施設との記載があるが、4施設については接続するという事でよいのか。

○事務局

- ・交付要件を満たすと考えており、対象事業にあわせて国庫補助金を要望していく。
- ・4施設については流域下水道へ接続できる。

○E 委員

- ・4施設以外で流域下水道へ接続する計画はあるか。

○事務局

- ・今のところ計画はない。

3 事業管理者あいさつ

- ・本日は審議ありがとうございました。汚水処理人口普及率95%を目指し、下水道面整備の令和7年度概成に向けてこれまで取り組んできました。今後の投資は、建設から維持の時代に移行する一方で、収益的収支については、諸物価の高騰で赤字体質になってきたというところで、使用料収入の増収分を審議いただきました。
- ・次回は使用料体系について具体的に審議いただくこととなりますのでよろしくお願いします。

- ・今年1月に発生した能登半島地震では、職員をのべ100人程度、現地に派遣しました。今年度からは、1名の職員を長期に派遣しています。職員の経験を災害への備えに生かしてまいります。
- ・また、地域で行うイベント等に給水車を派遣してほしいという要望が多く寄せられており、関心が高まっていると感じています。このような機会を通じて、上下水道事業の理解を深めてもらうよう周知してまいります。

午後3時00分終了